

第2学年 道徳科学習指導案

指導者：岡野 有希

教材名 「海と空―樫野の人々―」

主題名 国際社会の一員（C 国際理解、国際貢献）

- 1 日 時 令和4年9月16日（金）第5校時
- 2 対 象 第2学年4組（男子16名 女子18名 計34名）
- 3 場 所 2年4組教室（本館東側3階）
- 4 ね ら い 樫野の人々やトルコの人々の中にある思いを考えることを通して、世界の中の日本人としての自覚をもち、国際的視野に立って、尊重し合い、公正・公平に接しようとする心情を育てる。
- 5 主題設定の理由

（1）ねらいとする道徳的価値について

本主題は内容項目C「主として集団や社会との関わりに関すること」の（18）「国際理解・国際貢献」に基づくものとする。今日、グローバル化が進展する中で、様々な文化や価値観を背景とする人々と相互に尊重し合いながら生きることが一層重要な課題となっている。私たちは、地球規模の相互依存関係の中で生きており、我が国が、国際的な関わりを持つことなく孤立して存在することはできない。日本のことだけを考えるのではなく、国際的視野に立ち、広く世界の諸情勢に目を向けつつ、日本人としての自覚をしっかりとって国際理解に努めることが必要である。「他国を尊重」とは、他の地域や国々はそれぞれの文化や伝統、歴史を持っており、地域や国々の在り方、地域や国々が持っている理想等を、違いは違いとして理解し、それを尊重していくことを意味している。人間の存在や価値について理解を深め、よりよい社会が形成されるよう人類の発展に貢献する意欲を高めたい。

【国際理解・国際貢献の内容項目（小・中学校）】

小学1・2年生	小学3・4年	小学5・6年	中学校
他国の人々や文化に親しみを持つこと	他国の人々や文化に親しみ、関心を持つこと	他国の人々や文化について理解し、日本人としての自覚をもって国際親善に努めること	世界の中の日本人としての自覚を持ち、他国を尊重し、国際的視野に立って、世界の平和と人類の発展に寄与すること

（2）生徒の実態について

生徒はこれまで、各教科の学習や平和学習での体験を通して、世界が平和であってほしいという思いを持っている。本学級で行ったアンケートの「道徳の授業では大切なことを学んでいると思います」という項目の結果は87.1%と肯定的な回答をした生徒の割合は高く、道徳科の勉強を前向きに捉え必要性を感じている。

本学級生徒の本時の内容項目に関するアンケートを実施したところ、「世界で起きている戦争や貧困の問題についてあなたにできることがありますか」という項目では肯定的な回答をした生徒は90.6%であった。また「このような問題を解決するために企業や団体が行っている取り組みを知っていますか」という項目では37.5%であった。この結果から、平和な世界の実現のためにどうすればよいのか知識として知っている生徒は多いが、世界の中の日本人として、企業や団体が行っている取り組みを意識して調べたり、実際にできることを自ら調

べたりするなど、考え行動しようとする意識は低いことが分かる。今後、国際社会で生きていく生徒たちにとって、世界的視野に立って物事を考えることや、世界が平和で、皆が幸せに暮らすためには、どの国の人とも分け隔てなく接し、同じ人間として尊重し合うことの大切さについて気付かせることが必要であるとする。

(3) 教材の特質と活用方法

本教材は、主人公が 1985 年のイラン・イラク戦争時のテヘランからの脱出する際にトルコ政府から提供された飛行機によって無事帰国できた実話を元に構成されている。また、トルコ政府の厚意の背景として、1890 年のトルコ船籍エルトゥールル号遭難救助があった。その中で和歌山県串本の人々の献身的行為があったことを知り、百年のときを経てもなお、その恩恵に報いようとしたトルコの人々の温情に胸を打たれるという物語である。これらのことを通して、国と国との関わり、国際的規模の相互扶助の在り方、世界の平和と人類の幸福に貢献することが大切であると感じ、真の国際人としての生き方を考えさせることのできる資料である。指導にあたっては、前時に『プロジェクト X 撃墜予告テヘラン発最終フライトに急げ』を視聴し、イラン・イラク戦争で『私』が体験した状況や、トルコ政府が救援のために飛行機を提供してくれた状況を理解させる。本時の展開では「樫野の人々の行動」や「あたり前」という言葉に焦点をあて、自分事として考えさせるようにする。どこの国の人でも同じ人間として尊重し合い、差別や偏見をもたずに公正、公平に接した助け合いの心を理解させたい。世界の中の日本人としての自覚をもち、国際的視野に立って同じ人間として尊重し合おうとする道徳的心情を育みたい。

本時の学習

(1) 評価

世界の中の日本人としての自覚をもち、国際的視野に立って世界の平和と人類の幸福に貢献するなどの前向きな発言や記述がみられる。(授業での発言・ノートの記事)

(2) 学習展開

	学習活動	主な発問・予想される生徒の反応 ○：発問 ◎中心発問 補：補助発問 問：問い返し	指導上の留意点 発問の意図 手立て
導入 (3分)	1 教材について意識を高める。	大島・樫野地区の説明をする。 和歌山紀伊半島・本州最南端。船がよく難破した。 沖を黒潮が流れている。 太平洋の向こう側にはアメリカ大陸がある。	
展開① (12分)	2 資料「海と空」を聞く。	資料の中で「すてきだな」「心が温まるな」「心に響いたな」と思う部分を発表してください。 ・トルコが日本人のためにトルコの国の飛行機を出してくれたこと。 ・樫野の人々が、遭難したトルコ人を必死に助けたこと。 ・暴風の中助けた。一晩中体をさすったこと。 ・すべての作物、鶏などを提供したこと。 ・そういうことがあたりまえという言葉で終わったところ。 ・洋食をふるまったこと	・樫野の人々もトルコの人々もお互いに助け合ったことを気づかせる。 ○相互扶助 互いに助け合うこと。互助。

展開② (5分)	3 樫野の人々の 思いを 考える。	発問 1：「当たり前じゃ…わしらもトルコの方も一緒じゃ」 ○樫野の人々にとって、何が当たり前、何が一緒なのですか？	発問の前に P57 の 1 行目から 8 行目 まで読む
・漁獲量が減っている ・米の値段も上がって いた ・備えた食料もほとん どなかった		・ 苦しい時には誰もが助けるのが当たり前。 ・ 海で遭難した時に助けるのは海で生きる人間としては当たり前。 ・ 人間みんな一緒、困っているときは助けるのがあたり前。 ・ 苦しんでいるトルコの人と自分ら日本人は同じ人だから一緒。 ・ みんな海で暮らす人、海で困っているときはだれもが仲間。	
(5分) (10分)		発問 2：「このあと樫野地区の畑…」 ○「何もない」この中に樫野の人々のどんな思いが込められて いますか？	発問の前に P57 の 9 行目から 16 行目 まで読む
		・ 何もかもがなくなってしまってもいいから困っている人は助けよう。 ・ 自分たちの明日からの食べ物がまったくなくても、それでも助ける。 ・ トルコの人々を救うため、世のため人のために、すべて尽くしきる。 発問 3（中心発問） ◎樫野の人々が、ありったけの食料を提供してトルコ人を助けたのはなぜだろう。 ・ 互いに人間は助け合わなければいけないと思うから。 ・ 困っている人を助けるのは当たり前のことだから。 ・ 自分たちがやらないとトルコ人が助からないから。生命尊重 ・ 今やらないと後悔すると思うから。正しいことを貫きたいから。 ・ 海で遭難した者を救うのは自分たちの役目と思うから。 ・ つらいときはお互い様という思いから。 ・ 助け合いの精神があるから。 ・ やらないと絶対いけないと思うから。 ・ 人としてやるべきことだから 簡単にできること ではない。 実際は「当たり前」 ではない 「どうして人間は助け合わなければいけないのか」 「どうしてそんな危険なことをする必要があるのか」と 「なぜ後悔すると思うのか」 「どうして役目なのか」 「なぜお互い様なのか」 「なぜそう思うのか」	・ 補助発問や問い返しを繰り返し、多角的、多面的に自問自答させる。 ・ 樫野の人々がトルコ人を、同じ人間として尊重し、差別や偏見を持たずに接したことに気付かせる。

(10分)		○なぜ、トルコはトルコ人も危険な状況の中、日本人を助けてくれたのだろう？	班活動 (3分) ↓ 個人で発表 (7分)
	・ 檜野の人々の出来事は100年も前の話 ・ まだ救助されていないトルコ人もいた。 ・ 自国の人間よりも、他国の人間を優先して助ける ・ 飛行機を操縦するトルコ人の命の危険性もある。 ・ 100年前に助けてもらったから ・ 恩返しをしたいから ・ 今後の国同士の関係性に関わるから ・ 人としてできることをしたいから		
終末 (5分)		○この学習を通して、どんな生き方を学びましたか？	
		・ 国に関係なく、困っていたらお互いに助け合えば、良い関係を築けると思った。 ・ 文化や言葉など、違うところはあるけれど、相手のことを思う気持ちは外国の人にも通じると思う。 ・ 人と関わるときに大切なことは、外国人でも日本人でも同じだと思った。 ・ 世界にはいろいろな国や文化、言葉や生活習慣があることを知って、違いを否定しないで関わっていくことが大切だと思った。 ・ 国どうしの助け合いの気持ち ・ 国が違って同じ人間として認める気持ち ・ 助けられたことを忘れない気持ち	○相互扶助 互いに助け合うこと。互助。 世界の中の日本人としての自覚を持ち、国際的視野に立って他人事ではなく、自分との関わりで考えようとしているか。 【ワークシート 観察・発言】